

～時代の変化を統計調査から追う～



みなさんは20年前になにかあったかを覚えていますか？20年前と言えば、PHSから携帯に移行し始めたり、長野オリンピック・パラリンピック(1998年)が行われたりした頃になります。それが今やスマートフォンが主流になり、長野で盛り上がっていると思ったオリンピック・パラリンピックは、来年は東京で開催されようとしています。

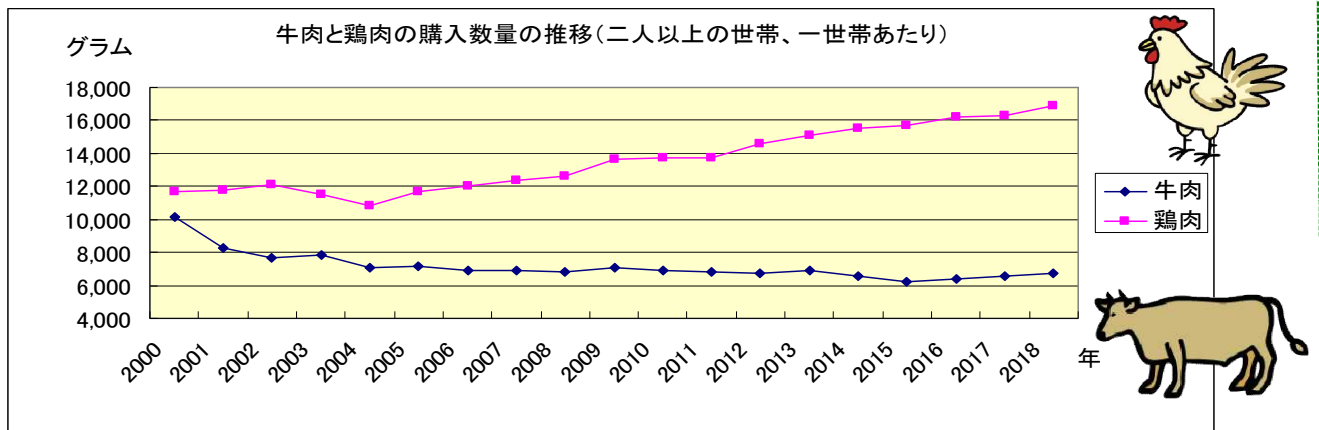
過ぎてみればあっという間かもしれませんが、時が経つにつれ世の中には確実に変化が起きています。それでは、ここ約20年で私たちの身近なものにはどんな変化がおこっているのでしょうか。

今回のコラムでは、約20年の間でおきた購入数量や支出金額に関する変化を家計調査から探ってみようと思います。

国民生活の家計収支の実態を把握するため
総務省により毎月行われる調査

* 牛肉と鶏肉 *

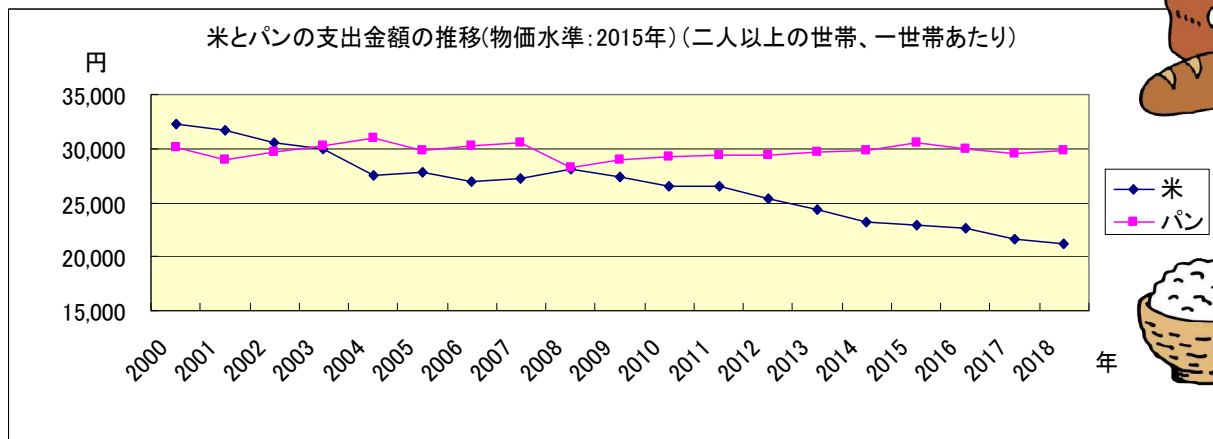
肉と言えば牛肉という人もいますが、健康志向の人は鶏肉を好んだりしますよね。街中では多くの牛丼屋が立ち並ぶ一方、コンビニ等でサラダチキンを頻繁に目にするようになりました。そんな牛肉と鶏肉の購入数量はどのように変化しているのでしょうか？それとも変化していないのでしょうか？



結果をみると、鶏肉の方が牛肉より購入数量が多いのはここ20年で変わりません。ですが、年々その差が大きくなっています。「メタボ」という言葉が浸透し、健康志向の人が増えたからでしょうか。また、牛肉の購入数量が下がっているのは、2001年に国内で発見された狂牛病の影響もあるのかもしれませんね。

* 米とパン *

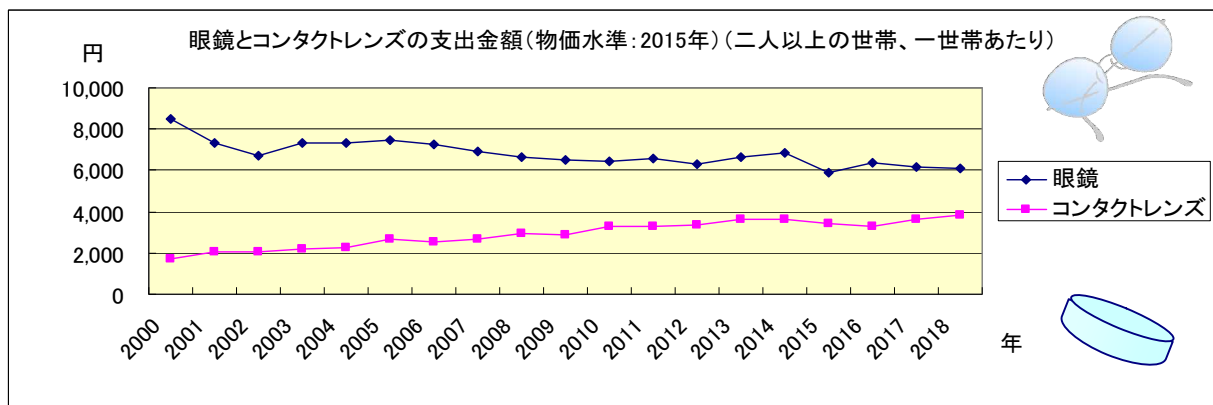
では次に、主食の比較です。ぐるなび総研による「今年の一皿」に2015年は「おにぎらず」が選ばれたと思ったら、2018年は「高級食パン」がノミネートしました。米とパンにも近年様々なブームがあったと思いますが、この二つの支出金額はどのように変化しているのでしょうか？



2000年は米の支出金額が多かったものの2003年頃それが逆転しています。2008年頃には再び同じくらいになりましたが、その後、パンの支出金額はほぼ横ばいなのに対し、米の支出金額は下がっています。このまいくと、「日本人と言えば米食」というイメージもだんだん変化していくかもしれませんね。

* 眼鏡とコンタクトレンズ *

最後は、眼鏡とコンタクトレンズの比較です。目が悪い人にとって眼鏡を選ぶか、コンタクトレンズを選ぶかは悩みどころかと思えます。また、日中はコンタクトで、家では眼鏡なんて人もいますよね。そんな眼鏡とコンタクトの支出金額はどのように変化しているのでしょうか？



眼鏡の支出金額が高いのは一定していますが、金額の差はどんどん縮まっていますね。コンタクトレンズの使用者が増えたからでしょうか。最近では格安眼鏡なんかも販売していますし、眼鏡の価格が下がったというのも関係あるかもしれません。

今回のコラムは「牛肉と鶏肉」、「米とパン」、「眼鏡とコンタクトレンズ」の三つに注目してみました。変わらないようでそれぞれ変化がありますね。上記では支出の変化から追いましたが、見方を変えたらもっと他の変化も見えてくるかもしれません。

統計調査には製造品について調べるものや生活時間の使い方を調べるもの等、いろいろな調査があります。そして、こういったものを活用することで社会の変化や問題等を知ることができるのです。送る月日に関守なし。気がつけば平成も幕を閉じようとしている今、知らない間に世の中が変わっていた！なんてことがないようにしたいですね。

データ出典:家計調査 家計収支編 二人以上の世帯(総務省統計局)

消費者物価指数 2015年基準消費者物価指数(総務省統計局)